臨時号【１０月号】
令和８年１０月２２日
品川区立上神明小学校
校長　今福　ちか

上神明だより

お礼　～上神明スポーツフェスティバルを終えて～

品川区立上神明小学校長　今福　ちか

先日は、本校初のスポーツフェスティバルがお陰様で無事に終了しました。保護者及び地域の皆様におかれましては、本校の新たな試みに対し多大なるご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。当日及び本番を迎えるまで、子どもたちは大きなけがや欠席もほとんどありませんでした。

また、自分の目標に向けた精一杯のパフォーマンスや満面の笑顔による表現、新しい応援チームによる創造的なスタイル、互いを応援し合う歌や掛け声、ハイタッチ等のとても素敵な姿が見られました。私のこれまでの経験上にはない、このスポーツフェスティバルそのものを楽しむ姿が見られたことを本当に心からうれしく思いました。この度、私の深い反省点は大きな変更がある中で、子どもたちの気持ちに寄り添いながら、十分な説明や動機付け等の配慮が出来なかったことにあります。そのような中、各ご家庭においては最後まで子どもたちを励まし支えていただき、様々なご協力をいただきました。そのご尽力のおかげで子どもたちの生き生きとする姿があったのだと痛感しております。また、本校の子どもたちの心根の素直さや優しさがあったから実現できたのだと思っております。さらに、PTA の皆様には行事終了後のテント等の撤去や片付けを、町会の皆さまには半纏を 6 年生の卒業記念のためにお貸しくださった等、多くの支えにより上神明小が成り立っていることに改めて御礼申し上げます。

話は変わって、私自身、長年従来型の運動会（赤白合戦）で実施や運営をし、コロナ禍前まではそのスタイルが殆どの学校であったと思います。そのスタイル自体は赤白に分かれたチームの一体感をゲーム的な要素（勝ち負け）で競い、得点化により祭り（イベント）として盛り上げる独特の体育的行事として一定の成果がありました。近年はコロナ禍から感染症や熱中症防止等の環境要因や、けが及び事故防止の観点から体育的行事内容は精選や時間短縮などの変遷がありました。加えて、競争することになじめない又は参加できない子どもに対しても焦点を当てるようになってきたのも事実です。本校は、誰一人取り残すことのない教育活動を推進しておりますので、今回は全てを得点化することをやめました。しかし、勝敗は現実にあり得ることであり、必要なことでもあると思っています。同時に「勝ち負けを超えた価値」も大切にしていきたいと考えています。今回、私が子どもたちに投げかけた「最高の自分になる」というフレーズは、他者意識よりも自分の目標やなりたい姿を目指してほしいとの願いからでした。

また、全校ダンスにおいては、音に合わせて踊る楽しさを味わい、子どもの苦手意識を軽減し身体機能を鍛え、かつダンス自体がもつ心と体を健康にする効果を、学校全体で一体となる経験で得ることがねらいでした。発表のために完成度を高めていく、各学年の表現種目とは意図が異なっていました。しかし、そのような詳しい説明ができなかったことで、皆様にはご心配をおかけし失礼いたしました。お詫び申し上げます。学校行事開催においては、このような教育的な意図をもって実施することになります。つまり学校行事そのものを成功させるのが最大の目的というより、学校行事を通して子どもたちの資質・能力を育てていくことを重要な目的としています。学校は、子どもの実態や活動の主たるねらい（コンセプト）、授業時数、天候や開催時期等の環境関係、教職員の状況、前年度からの反省（学校内部・外部評価）を相互的に加味して計画を練り決めていきます。この度は、私の経営方針を踏まえ、1 学期から教職員内で話し合って決めた今回のスポーツフェスティバルでした。今後は反省点を踏まえ、学校行事を通してより良い子どもの成長や変容を見られるよう尽力していきます。また、皆様からいただいた建設的なご意見は、真摯に受け止めていきたいと考えております。

最後に、この度「上神明スポーツフェスティバル」は、保護者及び地域の皆様のご厚意やご尽力で成し得たことに対し、心より深く感謝申し上げます。今後とも本校の教育活動に対するご理解及びご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。